

ブドウ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ベ ト 病	灰 色 か び 病	褐 斑 病	黒 と う 病	苦 腐 病	晩 腐 病	さ び 病	芽 枯 病	白 紋 羽 割 病	つ る 割 病	う ど ん こ 病	白 腐 病	枝 膨 病	す す 点 病	ゆ 合 促 進
I Cボルドー66DFL	M1		-	-	◎			◎		◎	◎								
Zボルドー水	M1		-	-	◎		◎				◎								
クプロシールドFL	M1		-	-	◎														
コサイド3000DF	M1		-	-	◎						◎								
インプレッションクリア水	BM2		*i	-	◎														
エコショット顆水	BM2		1	-	◎									◎					
ボトキラー水	BM2		*i	-	◎														
ミギワ20FL	52		1	3	◎	◎	◎		◎										
トップジンM水	1		45	1	◎	◎	◎	◎	◎		◎			◎					
トップジンMペースト	1		*L *b	3					◎				◎						◎
ベンレート水	1		45 *d	3 1	◎	◎	◎		◎		◎			◎			◎		
プロパティFL	50		3	3										◎					
アフエットFL	7		7	3	◎	◎	◎		◎	◎				◎					
カナメFL	7	劇	1	3	◎	◎	◎			◎				◎					
カンタスDF	7		7	3	大													大	
ケンジャFL	7		7	3	◎	◎	◎							◎					
バシタック水75	7		45	1							◎								
パレード15FL	7		7	2	◎	◎	◎			◎				◎					
フルーツセイバーFL	7		7	3	◎	◎	◎		◎	◎				◎					
アミスター10FL	11		30	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎							◎		
スクレアFL	11		1	3	◎		◎		◎					◎					
ストロビーDF	11		14	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎				◎		◎			
ファンタジスタ顆水	11		14	3	◎		◎		◎	◎									
フリントFL25	11		*d	1			◎		◎										
オラクル顆水	21		14	3	◎														
ライメイFL	21		14	3	◎														
ランマンFL	21		14	3	◎														
フロンサイドSC	29		*a 21	1 1	◎	◎		◎	◎				◎				◎		
フルピカFL	9		30	2	◎									◎					

ブ
ド
ウ

ブドウ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ベ ロ 病	灰 色 か び 病	褐 斑 病	黒 と う 病	苦 腐 病	晩 腐 病	さ び 病	芽 枯 病	白 紋 羽 病	つ る 割 病	う ど ん こ 病	白 腐 病	枝 膨 病	す す 点 病	ゆ 合 促 進
セイビアーFL20	12		21	3	◎					◎						◎			
ロブラール水	2		*h	3	◎		◎									◎			
フジワン粒	6		*e	1								◎							
インダーFL	3		30	3	◎	◎	◎								◎				
オーシャイン水	3		7 30	2	◎		◎					◎			◎				
オーシャインFL	3		7	2	◎	◎	◎								◎				
オンリーワンFL	3		1	3	◎	◎	◎		◎	◎					◎	◎		◎	
トリフミン水	3		7	3		◎	◎								◎				
マネージDF	3		21	3			◎			◎					◎				
パスワード顆水	17		14	2	◎											◎			
ピクシオDF	17		1	3	◎														
ポリオキシシAL水	19		60	5	◎														
ポリオキシシAL溶	19		60	5	◎		◎								◎				
フェスティバル水	40		45 30	2 2	小 大														
レーバスFL	40		7	3	◎														
アリエッティ水	P7		30	3	◎														
キノンドーFL	M1		45	*o	◎			◎										◎	
ドキリンFL	M1		45	*o	◎			◎										◎	
ヨネポン乳	M1		*n	1				◎		◎									
ジマンダイセン水	M3		45	2	◎		◎	◎		◎	◎								
チオノックFL	M3		60	2	◎	◎	◎	◎		◎									
トレノックSFL	M3		60	2	◎	◎	◎	◎		◎									
ペンコゼブ水	M3		45	2	◎		◎	◎		◎	◎								
オーソサイド水80	M4		30	3	◎	◎	◎	◎		◎								◎	
パスポート顆水	M5		*d	1				◎		◎									
ベフラン液25	M7	劇	*d 60	1 2			◎	◎		◎			◎					◎	
デランFL	M9	劇	*c *d	2 1	◎			◎		◎				◎				◎	
スイッチ顆水	9・12		30	2	◎					◎									
オルフィンプラスFL	7・3		14	3	◎					◎					◎				

ブ
ド
ウ

ブドウ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ベ ト 病	灰 色 か び 病	褐 斑 病	黒 と う 病	苦 腐 病	晩 腐 病	さ び 病	芽 枯 病	白 紋 羽 病	つ る 割 病	う ど ん こ 病	白 腐 病	枝 膨 病	す す 点 病	ゆ 合 促 進
テーク水	3・M3		45	2	◎	◎		◎		◎					◎				
ナリアWDG	7・11		7	3						大									
ジャストフィットFL	43・40		30	3	◎														
フォリオゴールドFL	4・M5		60	2	◎														
ゲッター水	1・10		45	1		◎													
ラビライト水	1・M3	*c	1							◎									
リドミルゴールドMZ顆水	4・M3		45	2	◎														
ホームイコート水	1・M3	*d	1				◎		◎				◎				◎		
ホライズンDF	11・27		21	3	◎		◎	◎	◎										
ポリベリン水	19・M7		60	2		◎	◎	◎	◎						◎				
フェスティバルC水	40・M1		45 30	2 2	小 大														
カーゼートPZ水	27・M3		45	2	◎														
カンパネラ水 ベネセット水	40・M3		45	2	◎		◎		◎										
ゾーベックエニベル顆水	49・M3		45	2	◎					◎									
フェスティバルM水	40・M3		45	2	◎														
ピオネクトFL	M1・-		45 *k	*o	◎			◎	◎				◎				◎		
アリエッティC水	P7・M4		30	3	◎	◎		◎	◎										
ザンプロDMFL	45・40		45 30	2 2	小 大														
ダイナモ顆水	21・27		21	3	◎														
ダイパワー水	M4・M7		60	2	◎		◎		◎										
ドーシャスFL	21・M5		60	3	◎		◎		◎										
ベトファイター顆水	40・27		30	3	◎														

- *a:開花直前～落弁期(但し収穫60日前まで) *b:休眠期(萌芽前)
 *c:落弁期まで(但し収穫75日前まで) *d:休眠期 *e:萌芽期まで
 *h:開花期～幼果期(但し収穫60日前まで) *i:発病前～発病初期
 *k:休眠期～開花前
 *l:剪定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後
 *n:萌芽前 *o:4回以内(但し開花後は1回以内)
 小:小粒種(デラウェア、シラガブドウ、やまぶどう)
 大:大粒種(巨峰系4倍体品種、2倍体米国系品種、2倍体欧州系品種、
 3倍体品種他)

ブ
ド
ウ

ブドウ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使用 回数	ブ ド ウ 種 別	ア ザ ミ ウ マ シ 類	ア ブ ラ ム シ 類	フ タ テ ン ヒ メ ヨ コ バ イ 類	ミ ド リ ヒ メ ヨ コ バ イ 類	カ イ ガ ラ ム シ 類	カ メ モ リ ガ 類	コ ウ モ シ バ リ 類	ブ ド ウ ト リ バ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	ハ マ キ ム シ 類	ケ ム シ 類	キン ケ ク チ ブ ト ソ ウ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	カ ミ キ リ ム シ 類	ハ ダ ダ ニ 類	サ ビ ダ ニ 類	そ の 他 害 虫
コロマイト水	6		7	2																	◎	
クムラス顆水	UN		*c	1																	ハ	
サンクリスタル乳	—		1	1																	◎	
オリオン水40	1A	劇	45	1					◎						も	◎						
サッチューコートS乳	1B		*b	2																	ラ	
スミチオン水40	1B		21	2	大		◎		ク		ス							成		成	ブ	ア
スミチオン乳	1B		90	2	大		◎	◎	ク		ス	◎			◎		成			成	ブ	ア
ダイアジノン水34	1B	劇	30	2	大		◎		◎	ク		ス	◎		◎		成				ブ	
マラソン乳	1B		7	6			◎		◎						◎		成				◎	
アーデントFL	3A		1	4		◎	◎											◎			◎	
アグロスリン水	3A	劇	21	5		チ	◎											◎			◎	
アディオンFL	3A		7	5	大	チ	◎											◎				
アディオン水	3A		7	5	大	チ	◎								メ			◎				
スカウトFL	3A	劇	7	3		チ	◎							◎			成					
テルスターFL	3A	劇	14	1		チ																
テルスター水	3A		14	1		チ																
バイスロイドEW	3A	劇	7	2	大	チ												◎				
ロディー水	3A	劇	21	2		チ																
ロビンフッドエアゾル	3A		1	5							◎	◎									◎	
アクタラ顆溶	4A		7	2		チ	◎		コ													
アドマイヤー顆水	4A	劇	*h	2		◎	◎		コ													
アルバリン顆溶	4A		1	3		チ	◎		コ	◎											ブ	
スタークル顆溶	4A		*e	1					コ													
ダントツ溶	4A		1	3		チ	◎		コ	◎								◎			ブ	
バリアード顆水	4A	劇	21	2		チ			コ													
ベストガード溶	4A		30	3		◎	◎		コ													
モスピラン顆溶	4A	劇	14	3		◎	◎		◎	ツ								成				ト
モスピラン粒	4A		14	3			ネ													ブ		
トランスフォームFL	4C		3	3					◎													
ディアナWDG	5		1	2		◎						ビ		◎	◎							
デリゲートWDG	5		1	2		◎						ビ		◎	◎							
コルト顆水*	9B		1	3		チ			◎	ツ												
ニッツラン水	10A		7	1																		◎
バロックFL	10B		7	1																		◎
オマイト水	12C		14	1	大																	カ
コテツFL	13	劇	60	2	小																	カ
パダンスG溶	14	劇	21	5	大	チ	◎				◎			◎	◎		◎					ナ
カスケード乳	15		30	2											◎							ノ
アブロードFL	16		30	2			幼	幼														

ブ
ド
ウ

ブドウ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日 数)	使 用 回 数	ブ ド ウ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ア ブ ラ ム シ 類	フ タ テ ン ヒ メ ヨ コ バ イ 類	ミ ド リ ヒ メ ヨ コ バ イ 類	カ イ ガ ラ ム シ 類	カ メ モ シ リ ガ 類	コ ウ モ シ バ リ 類	ブ ド ウ ト リ バ リ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	ハ マ キ ム シ 類	ケ ム シ 類	キン ケ ク チ ブ ト ソ ウ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	カ ミ キ リ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	サ ビ ダ ニ 類	そ の 他 害 虫
ロムダンFL	18		1	2												◎						
カネマイトFL	20B		14	1																	◎	
マイトコーネFL	20D		21	1																	◎	サ
サンマイト水	21A	劇	90	1		チ		◎													◎	
ダニトロンFL	21A		30	1																	◎	サ
ピラニカ水	21A	劇	30	1	大																◎	
ダニゲッターFL	23		*f	1																	◎	
モベントFL	23		7	3		◎				◎											◎	サ
スターマイトFL	25A		14	1																	◎	
ダニサラバFL	25A		1	2																	◎	ヒ
ダニオーテFL	25B		1	1																	◎	
ダニコングFL	25B		1	1																	◎	ヒ
エクシレルS E	28		1	3		◎							ビ	◎		◎	◎	◎				
サムコルFL10	28		1	3									ビ		◎	◎	◎	◎				モ
テッパン液	28		1	2		チ					◎		ビ		◎	◎	◎	◎				
フェニックスFL	28		14	2									◎	◎	◎	◎	◎	◎				ホ
ヨーバルFL	28		*g	1									◎									
ウーラルDF	29		7	2		チ							ビ		◎			◎				モ
ウーラルDF	29		*d	2		チ					ツ											ツ
グレースIAFL	30		14	2		チ								◎								サ
トラサイドA乳	1B・1B		*c	2																	ブ	
アブロードエースFL	16・21A		30	1						◎												ハ

*: 幼果期以降に使用する場合、果粉の溶脱を生じるおそれがあるので注意する。
 *a: 収穫後秋期 *b: 収穫後(10月)～萌芽前 *c: 発芽前(休眠期) *d: 開花前まで
 *e: 幼果期まで(但し収穫30日前まで) *f: 果実肥大期(大豆大期)～収穫前日 *g: 開花期まで
 *h: 収穫21日前まで(但し露地栽培については発芽期から開花期を除く)

ア: アカガネサルハムシ カ: カンザワハダニ ク: クワコナカイガラムシ
 く: クワコナカイガラムシ若齢幼虫 コ: コナカイガラムシ類 サ: ブドウサビダニ
 さ: ブドウサビダニ及びブドウハモグリダニ ス: ブドウスカシバ
 チ: チャノキイロアザミウマ ツ: ツマグロアオカシカメ ト: トビイロトラガ
 ナ: ナミハダニ及びカンザワハダニ ネ: ブドウネアブラムシ
 ノ: ミノガ類、モンキクロノメイガ及びトビイロイラガ ハ: ブドウハモグリダニ
 ヒ: ブドウヒメハダニ ビ: クビアカスカシバ ブ: ブドウトラカミキリ
 ホ: ミノガ類、ホソオビツチイロノメイガ及びモンキクロノメイガ
 ミ: ミカンキイロアザミウマ及びチャノキイロアザミウマ メ: アメリカシロヒトリ
 モ: モンキクロノメイガ も: チャノコカクモンハマキ ラ: トラカミキリムシ

小: 小粒種(デラウェア、シラガブドウ、やまぶどう)
 大: 大粒種(巨峰系4倍体品種、2倍体米国系品種、2倍体欧州系品種、3倍体品種他)
 幼: 幼虫 成: 成虫

ブドウ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病		<ul style="list-style-type: none"> ・落葉は集め処分する。 	春と秋にでやすい。 ヨーロッパ系の品種は発病しやすい。 前年発生した園は開花前から予防散布する。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
	4月下旬～9月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・次の薬剤のいずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 400～800倍 ジマンダイセン水和剤 1000倍 ホライズンドライフフロアブル● 2500～5000倍 ランマンフロアブル● 1000～2000倍 リドミルゴールド MZ顆粒水和剤● 1000倍 	
灰色かび病	5月中旬(開花直前)～6月下旬(開花直後)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発病花穂は除去する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> ゲッター水和剤● 1000～1500倍 ストロビードライフロアブル 2000～3000倍 ポリベリン水和剤 750～1500倍 ロブラール水和剤● 1000～1500倍 	裂果しやすい品種に発病が多い。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
褐斑病	休眠期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 落葉は集め処分する。 2. 次の薬剤を散布する。 <ul style="list-style-type: none"> ベフラン液剤25 250倍 	5月頃雨が多いと多発する。デラウェア、キャンベル・アーリーなどの品種は弱い。
	5月上旬～中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・次の薬剤のいずれかを散布する。 トップジンM水和剤 1000～2000倍 アミスター10フロアブル 1000倍 	
黒とう病	休眠期(発芽前)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 枝、まきひげは除去する。 2. 発病新梢は除去する。 3. 次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> デランフロアブル 200倍 ベフラン液剤25 250倍 ベンレート水和剤● 200～500倍 	春先天候不順の年に発生多い。 一般にヨーロッパ系の品種が弱く、アメリカ系の品種は強い。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
	5月上旬～6月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター10フロアブル 1000倍 アリエッティC水和剤 400～800倍 ジマンダイセン水和剤 1000倍 オーシャイン水和剤● 2000～3000倍 マネージDF● 4000～6000倍 ロブラール水和剤● 1000倍 	新梢が30～40cmくらいになった頃から薬剤散布を開始する。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。

ブドウ

ブドウ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
晩腐病	休眠期	<ol style="list-style-type: none"> 枝、まきひげは除去する。 発病新梢は除去する。 次の薬剤のいずれかを散布する。 ベフラン液剤25 250～500倍 パスポート顆粒水和剤 250～400倍 	6月下旬から収穫期にかけ雨が多い年に多発する。
	6月上旬～9月中旬	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター10フロアブル 1000倍 アリエッティC水和剤 400～600倍 ストロビードライフロアブル 2000～3000倍 トップジンM水和剤● 1000倍 ベンレート水和剤● 2000～3000倍 	幼果期以降の散布は果実の汚れに注意する。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
さび病		<ol style="list-style-type: none"> 落葉は集め処分する。 発生園は冬中に中耕する。 	梅雨あけから晴天が続くと発生しやすい。
	6月上旬～9月中旬	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 バシタック水和剤75 1000倍 ストロビードライフロアブル 3000倍 マネージDF● 4000～6000倍 	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
うどんこ病	新梢伸長期以降	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 トリフミン水和剤● 2000～3000倍 マネージDF● 4000～6000倍 ポリベリン水和剤 750～2000倍 	春と秋に発生しやすい。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
ブドウえそ果病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 媒介虫であるハモグリダニを防除する。 	発病葉は緑色濃淡が明瞭なモザイク症状を現す。
ブドウえそ果ウイルス (GINV)		<ul style="list-style-type: none"> 感染拡大を防止するため、感染が確定した樹は伐採し未感染の苗木に切り替える。 	主に巨峰系のブドウ品種で発病しやすい。

ブドウ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 スミチオン乳剤#1 1000～2000倍 ダイアジノン水和剤#34#2 1000～1500倍	#1大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。 #2大粒種のみ
ブドウネアブラムシ	生育期	1. 抵抗性台木による接木栽培を行う。 2. 次の薬剤を散布する。 モスピラン粒剤(散布) # 30g/m ² (6kg/10a以下)	# 樹冠下または主幹周辺に散布する。
フタテンヒメヨコバイ	5月下旬(開花前)・ 6月上旬(落弁後)	1. 不要な副梢を摘み取り、園の通風と採光をよくする。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン水和剤 1000～2000倍 サンマイル水和剤 1000倍 スミチオン水和剤40#1 800～1000倍 パダンSG水溶剤#2 1500倍 ベストガード水溶剤 1000倍	#1大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。 #2大粒種のみ
カイガラムシ類	3月中旬(発芽前)	・次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤* 7～10倍	*落葉果樹での登録商品により登録が異なるので注意。
クワコナカイガラムシ	5月上旬(開花前)	・次の薬剤のいずれかを散布する。 トランスフォームフロアブル#1 1000～2000倍 スミチオン水和剤40#2 800～1200倍 ダイアジノン水和剤34#3 1000～1500倍	#1カイガラムシ類での登録 #2大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。 #3大粒種のみ、若齢幼虫に適用。
チャノキイロアザミウマ	6月上旬～下旬	1. 発生源となるので不要な副梢は早めに剪定する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオフロアブル#1 1000～2000倍 アドマイヤー顆粒水和剤#2*a 5000～10000倍 コテツフロアブル 2000～4000倍 モスピラン顆粒水溶剤#2 2000～4000倍 ロディー水和剤 2000倍 モベントフロアブル#2 2000倍	チャヤイヌマキなどが寄主植物である。開花前および落弁後約1か月間の防除が重要。 #1大粒種のみ #2アザミウマ類での登録 *a露地栽培については発芽期から開花期を除く

ブドウ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アメリカシロヒトリ	生育期	1. 若齢幼虫期には、巣網を作って集団でいるので枝ごと処分する。 2. 幼虫発生期に次の薬剤を散布する。 アディオン水和剤 2000倍	幼虫は5月下旬～6月下旬と8月中旬～9月中旬の年2回発生する。
コガネムシ類	7月上旬	1. 成虫の活動が鈍い早朝に棚を揺すって落下した成虫を捕殺する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオンフロアブル#1 1500倍 エクシレルSE 5000倍 スミチオン水和剤40#2 800～1000倍 モスピラン顆粒水溶剤#3 2000～4000倍	#1大粒種のみ #2成虫での登録 大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。 #3成虫での登録
ブドウトラカミキリ	10月下旬～3月中旬(休眠期)	・ 次の薬剤を散布する。 トラサイドA乳剤 200～300倍	山林に接した園で発生が多い。 # 大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。
	10月上旬(成虫発生終期)	1. 剪定枝を放置すると発生源となるので処分する。食入痕を見つけたら幼虫を刺殺する。 2. 次の薬剤を散布する。 スミチオン水和剤40# 800～1000倍	
ハダニ類	生育期	1. 発生源となるので下草管理を徹底する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アーデントフロアブル 2000倍 サンマイト水和剤 1000～1500倍 ダニトロンフロアブル 1000～2000倍 バロックフロアブル 2000倍 マイトコーネフロアブル 1000～1500倍 モベントフロアブル 2000倍	薬剤抵抗性がつきやすいので同一薬剤の連用をしない。

ブドウ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ブドウハモ グリダニ	3月中旬 (発芽前)	・次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤* 7～10倍	*落葉果樹での登録 商品により登録が異なる ので注意。
	生育期	・次の薬剤を散布する。 コテツフロアブル 2000倍 アプロードエースフロアブル 1000倍	
その他の害虫		コウモリガ、果実吸蛾類	